

京林大だより

No.41



明けましておめでとうございます
本年もよろしくお願いたします。

第3回林大祭を開催しました

日頃お世話になっている地域の方々や林業関係者と林業大学校との交流を図る「第3回林大祭」を、12月2日(日)に開催しました。

当日は好天にも恵まれ約200名の来場者で賑わい、丸太の輪切りを使ったオセロゲームやリースづくり、木工体験などの木と触れ合うコーナー、更にはハタケシメジや鹿肉などの地元食材を使ったカレーの模擬店など、学生が林大で学んだ知識や技術を活かしたイベントで楽しんでいただきました。

模擬店に参加いただいた皆様ありがとうございました。

(模擬店協力者：「MADOI」、「森の力京都」、「樹々の会」、「工房仙太」(順不同、敬称略))

木製タイルを活かした「オセロ」



実習で学んだロープワークを活かした「綱渡り」コーナー



大迫力のチェーンソーアート実演



ちょっとスパイシーな「林大カレー」



地元の皆様にも出店いただきました

大盛況の「リース作り」



「山の幸」大好評でした

林政ニュース

『新たな森林管理』

昨年の1月号でも触れましたが、いよいよ4月から「森林経営管理法」が施行されます。

この法律によって、市町村が主体となって森林の経営や管理を考えていく森林経営管理制度が始まります。

まず市町村は、森林所有者に今後所有林を自分で経営していくのかどうかの経営管理意向調査を実施します。

その結果、森林所有者が自らは経営管理をせず、市町村に権利をゆだねる森林について、
①経営できそうな森林については、民間事業者に管理する権利を与え経営してもらいます。
②経営に適さない森林については、市町村が自ら管理を考えていくこととなります。

森林の取り扱いが、今年は大きく変わる年になりそうです。

なお、これらを行なうのに必要な経費には、森林環境譲与税が当てられることになっています。



今月の授業参観

『森林公共政策入門』

森林公共政策入門の授業では、森林・林業を通して、地域の課題解決に向けてどのように取り組むかについて学びます。

林業のことを多くの人に知ってもらうにはどうすれば良いか、この山をどのように活用すべきか等を、現地での実習を通じて考えます。

今回は、竹野小学校の高学年生を対象に、間伐の目的や方法の説明、伐採の実演や枝打ち体験などを学生主体で行いました。



力を合わせて運びます



校長室より

正月の木、松竹梅、そして

校長 只木良也

お正月、おめでとうございます。

正月飾りなど目出度い木として松竹梅がありますが、これらは、この欄で何度か（平成25年1月、3月、26年1月、29年1月）扱いました。それ以外にも、ナンテン、ユズリハ…。

ナンテンは中国原産ですが、古くから西日本、四国、九州に生育していたようです。

ナンテンは、「難を転ずる」の意味に解し、縁起の良い木とされ、庭や鬼門に植えると良い、と広く用いられてきました。他にも、小豆物に添えると食中毒の「難を転ずる」、山伏はその小枝を腰に差して「難転」。また福寿草とセットにして、「災い転じて福となす」とも。

江戸期には「南天を庭に植えて火災除け」が信じられていたようです。花言葉は「我が愛はます」。葉は、実際に生薬であり、健胃、解熱、鎮咳などに使われてきました。

なお、ナンテンは低木ですが、稀に太く育ったものは床柱として使われ、京都金閣寺の「ナンテンの床柱」は有名、落語にも出てきます。

常緑広葉樹では、春に枝先に若葉が出た直後、前年の葉が落葉するのが普通です。その現象が目立つのがユズリハで、その様子を、親が子に世代を譲るのに見立てて、「譲葉」の文字を当て家が代々続いていくようにと願う縁起物として、正月の飾りに使われて来た、と言われていています。

漢字では「交譲木」とも。本州の福島県以西、四国、九州、沖縄、韓国、中国中部まで、暖地の山地に自生分布しています。

ユズリハは、常緑で大きな葉、日向はもちろん、日陰にも強いので、庭木や門際や屋敷周辺の目隠しとしてもよく利用されてきました。葉と樹皮は薬用にもなります。

ユズリハの花言葉は四つ：若返り、世代交代、譲渡、新生。その由来は、「葉の入れ替わりは世代交代を連想」で、心機一転新たな気持ちにさせてくれます。